

診断力強化トレーニング

What's your diagnosis?



編：松村 理司, 酒見 英太
執筆：京都 GIM カンファレンス

B5 頁 228 2008 年
定価 3,990 円(本体 3,800 円+税 5%)
[ISBN978-4-260-00647-7] 医学書院刊

この本はゆっくりと読み進めなければならない。考えながら読まなければならない。そうしなければ、この本の本当の面白さは味わえない。手に取るときから注意して、ページを開くときから緊張して立ち向かう。

まず目次に目を通そう。普通の症例集とは違い、年齢も主訴も示されない何か意味ありげな題名が並んでいる。これこそが京都 GIM カンファレンスの発表者がこだわる「妙なタイトル」である。発表者は参加者を知的に楽しませることを強く意識している。それが最も集約されているのがこの「タイトル」である。これで興味が引かれたらぜひ読み進めよう。でも、「注意して」読み進めよう。

一人で読むのなら、まず下敷きを用意しよう。それでページ全体を隠してから、題名から一行一行読んでいこう。

グループで読むのなら、誰か一人にナビゲーター役をしてもらって、疑似ケースディスカッションをしよう。ナビゲーターが一つ一つの項目を説明して進めていこう。

そして、表紙にある「What's your diagnosis?」の問いを自分に投げかけながら、ステップごとに鑑別診断を列挙し、その中で可能性の高い疾患を挙げ、さらに何を確かめたいか、どんな検査を行いたい、とりあえずどう対応するかを考えていこう。そうすれば、ここに示された症例の奥行きは深く情報は多いことを感じるができるだろう。

この本を普通の症例集のように最初からざーっと読んだのでは、題名にある「診断力強化トレーニング」の効果を損なってしまう。「正解」の診断を当てられるかどうかにかかわって、「解説」に示されたそこに至るプロセスやその後の対応や経過を読み飛ばしたり読み流したりしてはならない。そこには、臨床上しばしば問題となる落とし穴や、検査の感度・特異度・尤度比、正解以外の疾患との鑑別方法、とりあえずの対応のポイントなど、さらに深い学びにつながる道しるべが示されている。

このようにして読み終えたあなたは、もう元のあなたではない。それほどインパクトのある「トレーニング本」である。楽しもう。